

# 2012 年度助成活動最終報告書

企画名：世界遺産地域を結ぶ市民協働：東アジアにおける自然共生型社会の実現をめざす人的・知的ネットワークの形成（Year 2）

団体・個人名：日中市民社会ネットワーク

助成額：250万円

## 1. 報告要旨

東アジア環境交流プロジェクトは、「世界遺産地域を結ぶ市民協働」というコンセプトの下で、視察ツアーや交流会、ワークショップなど多様な活動を通して、日本と中国の間で、自然共生型社会の実現をめざす人的・知的ネットワークの構築に努めてきた。

2012年6月に、中国雲南省昆明市で「雲南・屋久島自然共生型社会交流会」を行い、30人以上のNGO関係者が参加した。その後、白馬雪山自然保護区と梅里雪山国立公園で視察ツアーを実施し、日本から現地入りした専門家が視察の成果を踏まえつつ研修ワークショップを2回行った。保護区の職員や地域住民など約25人の受講生がワークショップに参加し、保護区の環境教育という役割や地域活性化について議論を重ねた。専門家は視察の結果について保護区への提言を報告書にまとめた。

2013年1月に、中国環境NGO代表者3名を招き、屋久島視察ツアーを行った。うみがめ館やゴミ処理場などを見学し、自然体験ツアーに参加して島の自然環境を視察した。視察最終日に、地域住民を招き、交流会と水餃子ワークショップを行った。北京大学教授、山水自然保護区センター設立者の呂植先生と上海益優青年サービスセンター代表の張寧さんがそれぞれの活動について紹介し、参加者と交流した。交流会後、中国側の訪問者と地域住民と一緒に中国の伝統料理水餃子をつくった。言葉が通じなくても、共通の目標をともに実現する共同作業によって、参加者同士の心が通じ合う貴重な経験となった。

うみがめ館との交流において、2013年夏に上海の高校生が参加するボランティアツアーを実施することに、日中双方の意見が一致した。2013年3月上旬、上海の高校で説明会を行い、参加者募集の準備が始まった。

しかし、当初2012年9月に白馬雪山保護区で開催を予定していた「第二回日中自然共生地域づくりワークショップ」は、日中間の領土問題をめぐる混乱の影響により延期となり、それに関連するガイドラインの作成も来年度の目標と変更せざるを得なかった。申請当初は、日中関係の悪化、特に中国で起きた暴動などの突発的な障害に対しては予測ができなかった。国家関係がますます複雑化、硬直化しがちな今の時代において、日本と中国の間で市民のネットワークをつくっていくためには、より柔軟で臨機応変な体制を整えておくことが必要であると、今回の事件から学んだ。

2012年の活動について、CSネットHPの「東アジア環境交流プロジェクト」コラムで紹介している。

<http://csnet.asia/archives/category/project/eastasia>

## 2. 設定目標の達成状況

**具体的にめざす目標・成果は達成できたか：**

1、日中 2 か国語による月刊コラムの作成と配信：年間 10 本の記事を作成・配信したが、尖閣諸島の問題で事業が一時停滞したため、予定より記事の本数が少なかった。

2、三江併流世界自然遺産地域の雲南省白馬雪山自然保護区における自然共生型地域づくりモデルプランの作成に向けた現地視察（5 月）および「第 2 回日中自然共生型地域づくりワークショップ」開催（9 月）：白馬雪山自然保護区の現地視察は 6 月下旬に実施し、専門家によるモデルプラン作成のアドバイスやネットワークの拡大などの成果をあげた。しかし、9 月のワークショップは中国国内で起きた暴動などによって、中止することとなった。

3、前項モデルプランとワークショップ報告書（日中英 3 言語）

ワークショップの延期によって、報告書の作成・公開も来年度に延期せざるを得なくなった。

4、ボランツーリズム（ボランティアとツーリズムの融合的実践）のガイドライン作成に向けた現地視察（屋久島 7～8 月、白馬雪山 5 月および 9 月）

2013 年 1 月に中国環境 NGO の代表者たちによる屋久島視察を実施し、ウミガメボランティアツアーについて、日中関係者が協力する意思を確認し合った。

5、前項ガイドラインは「基本篇」と「地域別」の 2 種類を日中英 3 言語で作成

ガイドラインはワークショップの延期によって遅れたが、来年度のウミガメボランティアツアーおよび白馬雪山保護区で行われるワークショップの実施後、作成し、上海で開催予定のエコフェアで公開する予定。

**目標達成度のめやすをどこまでクリアしたか：**

全体的に領土問題の影響により達成度が落ちたが、実施した活動は質のいいものだと確信している。6 月の白馬雪山保護区における現地視察では、大変充実した内容の研修および報告書ができ、1 月の屋久島視察ツアーも、ウミガメボランティアツアーの企画が確実に進められ、また地域との交流会を通して、屋久島におけるネットワークをさらに広げることができたと思われる。

**上記のめやすに即して計った企画完了時の目標達成度をパーセントで自己評価すると：**

ワークショップが延期に、ガイドラインもまだ完成していないため、達成度は 65%。

**3. 実施状況**

4 月	<a href="#">CS ネット HP 上の東アジア環境交流プロジェクトコラム掲載</a> （以後、不定期ながら継続）。上海益優の張寧さんが企画するボランティアツアー（5 月）の情報を入手、同行することについて検討。
5 月	張さんのボランティアツアーが難航。 中国側の協力団体 Winrock との共同主催で、6 月雲南視察ツアーを企画。Winrock は専門家 1 名の経費を提供。 Winrock の李さんと Skype 会議でツアーの内容と日程を調整。ツアーの準備、研修資料の翻訳など。
6 月	6 月 24 日～30 日、日本側の専門家（エコツーリズムセンターの代表理事広瀬氏、屋久島 YNAC の小原氏と、 <a href="#">雲南を視察。昆明で環境 NGO 交流会、白馬雪山自然保護区で体験ツアー及び講習会を実施</a> 。 保護区は自然学校のように、体験型自然学習ツアーなど環境教育活動に取り組む意向を表明。

7月	<p>上海益優の張寧さんを訪問。本プロジェクトについて、意見を求めた。</p> <p>活動報告書を作成、専門家からの報告を編集・翻訳、中国側に提出。</p> <p>中国側の協力団体 Winrock は日本側の報告を高く評価。</p> <p>自然の友の副代表が訪日、本プロジェクトに興味を示す。</p>
8月	<p>星川さんや Winrock の李さんと相談し、10月のワークショップ・体験ツアーについて、内容と日程を調整。</p> <p>日中の関係者にワークショップの情報を知らせ、参加を要請。</p>
9月	<p>小原さんの紹介で、風の旅行社と白馬雪山エコツアーについて話し合う。2013年6月上旬に、「植物」がテーマとなるツアーを実施。小原さんと朱が講師に。協力体制について、保護区の局長に確認。</p> <p>10月ワークショップについて、参加者の森文美さんと打ち合わせ。自然教育経験豊富な森さんが以前自然保護協会で作ったエコツーリストのガイドラインを提供してくれた。それを参考に、保護区と一緒にガイドラインを考える。</p> <p>中国で大きな反日デモが行われ、社会が不安定に。毎日中国のネットや家族・友人・仕事仲間から情報を収集。</p>
10月	<p>星川さんと幾度ネット会議を行い、日本側の参加者の安全を優先し、そして持続可能な活動を確保するために、最終的にワークショップを延期することを決めた。</p> <p>星川さんと話し合った結果、来年の白馬雪山スタディツアーは、風の旅行社と組むのではなく、プロジェクトの活動（非営利）として単独で行うことになった。</p> <p>韓国人研究者鄭さんと会合。本プロジェクトのために、今後、韓国関連情報の提供や関係者の紹介に関して協力すると約束してくれた。</p>
11月	<p>別のプロジェクトで四川成都を訪問する際に、白馬雪山保護区の肖林さんや Winrock の担当者、および前担当者の李静若さんが残した仕事やプロジェクトの今後について話し合い、協力関係の継続を確認した。</p> <p>1月下旬の中国代表者による屋久島視察のために、ビザの申請書類を作成し、参加者に送付。</p>
12月	<p>1月下旬の視察ツアーのための準備作業：</p> <p>星川さんとプログラムづくり、交流会参加者の募集活動、予算づくりなど。</p>
2013年 1月	<p>22日～27日まで、<a href="#">屋久島で視察ツアーを実施</a>。屋久島の環境問題がテーマとなる講義や、体験プログラム、うみがめ館・ゴミ処理場・堆肥センターの見学のほか、最終日に地元の方々と交流会および水餃子ワークショップを開催。</p> <p>2013年度のエコフェア（仮）について、中国参加者と意見交換。</p>
2月	<p>自然の友が台湾で行った「<a href="#">Leave No Trace</a>」<a href="#">研修に関する報告書をコラムで紹介</a>。</p> <p>上海益優の張さんとうみがめ保護ボランティアについて相談。</p> <p>2013年度の企画について星川さんと相談。</p>
3月	<p>上海益優の張寧さんの協力で、3月6日に、上海の高校で「屋久島うみがめ保護ボランティアツアー」について説明会を行った。アンケートによると、ほとんどの学生がボランティアツアーに興味を持つようになった。学校側も積極的なので、7月にボランティアツアーを開催できるように、プログラムづくりを開始。</p> <p>2013年度のエコフェアについて星川さんや中国側のキーパーソン孫さんと Skype 会議を行った。</p>

#### 4. 成果物

1. 雲南視察ツアー2012 報告：[白馬雪山自然保護区への提言Ⅰ（作者：小原 比呂志）](#)
2. 雲南視察ツアー2012 報告：[白馬雪山自然保護区への提言Ⅱ（作者：広瀬 敏通）](#)
3. 「雲南・屋久島自然共生交流会」記事：雲南西双版纳（シーサンバンナ）植物園 HP
4. 記事：[白馬雪山エコツアー発展の道に思いをはせる（作者：李 静若）](#)
5. 記事：[東アジアネットワークへ：韓国世界自然遺産「済州島」の現状（作者：鄭 智允）](#)
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

#### 5. 実施による学び

計画に照らし合わせてみると、もっとも大きな相違点は9月に予定されるワークショップの延期と、それに関連するガイドラインの作成作業ができなかったことです。

申請時は、日中関係の悪化、特に実際に中国国内で暴力を伴う半日デモが発生することは予測できなかったが、このような事件は一時的なことであり、国家関係に多く期待できない今だからこそ、今後、民間の草の根レベルで、継続的に交流活動を行っていく必要があると考えます。今回の「延期」という選択は必要な妥協策でしたが、今後、日中間ですでに築き上げてきた私たちの人的ネットワークを生かしながら、安全で効果的な活動が可能な環境を確保していきたいと思えます。

#### 6. ハイライト

一つは、白馬雪山保護区で研修を行った際に、現地の牧畜民たちが牧場から長い距離を歩いて参加し、夜遅くまで真剣に研修を受けたこと。彼らは本当に地域のことを思っていることを感じさせられました。

もう一つは、屋久島で開いた「水餃子ワークショップ」で、中国側の訪問者と地域の住民と一緒に餃子をつくった時のこと。言葉がわからなくても、共通の目標をとともに実現する共同作業によって、参加者同士が、心が通じ合うことができた貴重な経験となったと思えます。

#### 7. 支援

星川さんがいつも親身になって相談に乗ってくださることに對して、心より感謝申し上げます。このプロジェクトは性質上、形になるまで時間がかかると思えます。時間を与えていただき、ほんとにありがとうございました！

ネットワークを広げていくために、ぜひ皆様のお力をお借りしたいと思えます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。